

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
梅林 厚子			
金3、金4			
添付ファイル			

科目の概要	不登校やいじめ、虐待など、今日の子ども、保護者、教師を取り巻く環境・問題を考察しながら、子どもを正しく理解し、問題を抱えた子どもにどのように指導・援助していけばよいのか臨床心理学の知見をふまえ、幅広く学んでいくことができるよう講義します。また、基本的なカウンセリングの知識や技術を指導するとともに、教師が行う「学校における」カウンセリングのあり方、及び、校内や地域、関係機関との連携について理解を深め、その基本的な態度を身につけ、教育現場で活用できる力を養うようにします。
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）、教育相談について 教育相談の意義と役割、教育相談の内容、教育相談の機能について解説する。 シラバスを事前に読み、授業の概要を捉えておいてください。</p> <p>第2回 学校教育における教育相談の歩みについて 教育相談の歴史や生徒指導と教育相談の関係、学校と専門機関の相談の相違点について解説する。 特に、「学校と専門機関の相談の相違点」は今後の学びにおいても重要となる内容ですので、理解を深めるよう復習に励んでほしいです。</p> <p>第3回 カウンセリングの理論について 精神分析、来談者中心療法、行動療法など、代表的なカウンセリング理論を解説する。 本時の内容は「臨床心理学」に基づく内容ですので、関連の参考書を読んでおくことが望まれます。</p> <p>第4回 教師のカウンセリング・マインドについて（1） ロールプレイ 傾聴することの意義や傾聴技法について解説し、傾聴のロールプレイを取り入れながら授業を進める。 特に前時で学んだ「来談者中心療法」は本時の内容と関連が深いので、再度復習をしてから本時に臨んでほしいです。</p> <p>第5回 教師のカウンセリング・マインドについて（2） DVD視聴 実際の個別面接場面をDVDで視聴し、積極的傾聴の認識を深める。 第3回の「来談者中心療法」や第4回で学んだ「傾聴技法」の内容が、本時で視聴するDVDにまとめられていますので、復習に取り組んでおいてほしいです。</p> <p>第6回 グループアプローチについて グループワークを実施し、構成的グループエンカウンターを体験しながら授業を進める。 構成的グループエンカウンターの種類やその内容を事前に調べておき、より主体的にグループワークに取り組んでもらいたいです。</p> <p>第7回 子どもパーソナリティ理解について 子どもの欲求や発達課題、問題行動の意味などを解説する。 子どもの心を理解するための基本的な内容を学ぶため、復習を行い、今後に向けて理解を深めておいてほしいです。</p> <p>第8回 教育相談のためのアセスメントについて 知能検査や性格検査など心理アセスメントについて解説し、自己理解や他者理解をはかるためのワークを実施する。 個別のワークで自己理解をはかり、グループワークを通して他者理解を行うことで、心理アセスメントの理解を深めてほしいです。</p> <p>第9回 発達障がいへの対応について 発達障がいの基礎知識を学び、発達障がいのある子どもへの対応について理解する。 発達障がいについては他教科でも取り上げられていることが多いので、関連の内容を見直し、予習や復習を重ねておいてほしいです。</p> <p>第10回 いじめへの対応について いじめの構造やいじめの様態などを学び、いじめの予防やいじめへの対応について解説する。 いじめは今日的な課題であるため、新聞やニュースなどで報道される機会が多いです。報道内容を事前に調べておいたり、関連の書物を読んだりして、いじめに対する認識を深めておいてください。また、授業の中では、いじめの予防やいじめへの対応についてディスカッションを行い、実践的な態度を養うようにします。</p> <p>第11回 不登校への対応について 不登校の類型や不登校の経過などを学び、不登校への対応について解説する。 時代に応じた不登校への対応が模索されていますので、新聞やニュースなどで報道されている内容を事前に調べ、認識を深めておいてほしいです。</p> <p>第12回 非行への対応について 非行の心理的原因などを学び、非行への対応について解説する。 新聞やニュースなどで報道されている非行の問題（インターネット関係のトラブルも含む）を事前に調べ、認識を深めておいてほしいです。授業の中でもグループワークに取り組みます。</p> <p>第13回 虐待への対応、危機介入について 虐待が子どもに及ぼす影響について解説する。また、学校危機への対応や危機後の心理教育のあり方についても紹介する。 虐待は今日的な課題であるため、新聞やニュースなどで報道される機会が多いです。報道内容を事前に調べておいたり、関連の書物を読んだりして、虐待に対する認識を深めておいてくださ</p>

	<p>い。なお、学校危機への対応や心理教育のあり方については、心理教育用絵本を用いてワークに取り組みながら授業を進めます。</p> <p>第14回 保護者との連携、支援のあり方について 保護者対応の基本的な流れについて解説し、具体的な事例をグループワークを通して検討しながら授業を進める。 第3、4、5回で学んだ「カウンセリング・マインド」が本時の内容と関連しているため、復習に取り組みをお願いいたします。</p> <p>第15回 学校内での連携、地域社会・関係機関との連携について、まとめ 養護教諭やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど校内での協力体制のとり方、及び、学校外における連携のあり方について解説する。 子どもを正しく理解し、問題を抱えた子どもにどのように指導・援助していけばよいかの認識を深めるためにも、これまで本授業で学んできたことの見直しを行うことが大切です。</p>
学習到達目標	<p>1) 学校教育における教育相談の重要性を認識し、教育相談の方法や教育相談の実際について説明することができる。</p> <p>2) 「学校における」教師の相談のあり方として、基本的なカウンセリングの技法を使用することができる。</p> <p>3) 様々な子どもの問題行動について、教師としてどのように対応すべきか、見通しを立てることができる。</p>
授業の方法	<p>[授業形態] ・講義形式</p> <p>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回では、「傾聴」のロールプレイを実施し、グループワークに取り組むことで、理解を深める。 ・第5回では、個別面接場面をDVDで視聴した後、グループでのワークを実施することで、積極的傾聴の認識を深める。 ・第6回では、構成的グループエンカウンターグループワークに取り組むことで、自己理解、他者理解の認識を深める。 ・第8回では、自己理解や他者理解をはかるための個別やグループでのワークに取り組むことで、心理アセスメントの理解を深める。 ・第10回では、いじめの予防や対応についてディスカッションを行うことで、実践的な態度を養うようにする。 ・第12回では、非行の問題（インターネット関係のトラブルも含む）についてのグループワークに取り組むことで、理解を深める。 ・第13回では、学校危機への対応や心理教育のあり方について、心理教育用絵本を用いてグループワークに取り組むことで、実践的な態度を養うようにする。 ・第14回では、保護者対応の具体的な事例をグループワークを用いながら検討し、実践的な態度を養うようにする。
成績評価の方法	<p>期末試験（60％）、授業コメントシート（20％）、受講態度（20％）を総合的に評価します。</p>
教科書・テキスト	<p>久芳美恵子 2014 「教師のための教育相談の基礎」 三省堂 *適宜資料プリントを配布します。</p>
参考書	<p>田中智志・橋本美保監修、羽田紘一編著 2014 「新・教職課程シリーズ 教育相談」 一藝社 原田眞理編著 2016 「教育相談の理論と方法」 玉川大学出版部</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>保育者、教育者になろうという使命を自覚し、現代の保育・教育上の諸問題に関心を向けておくことが望ましいです。そのためにも、関連の書物を読んだり、新聞やニュースなどを見たりする習慣をつけておいてほしいです。</p>
履修上の留意事項	<p>「教育心理学」の応用部分も含まれますので、「教育心理学」の単位を取得していることが望ましいです。</p>
オフィスアワー	<p>月・水・木・金曜日の昼休み</p>
担当教員への連絡方法	<p>4号館605号室 a-umebayashi@osaka-aoyama.ac.jp</p>
その他	<p>特になし</p>